

一般質問

9名が登壇 市政を問う

*この一般質問は9月8日と9日に行われたものです。

一般質問

・現下の市内経済における 上下水道料金の改定について



阿南澄男

問 当市における上下水道料金は、国の原子力政策に対する理解と協力を求めるため、昭和40年代から旧浜岡町の原子力政策として、税外負担の軽減を展開してきました。その税外負担の軽減の中でも最たるものが、上下水道料金だと私は理解しています。長年の政策を転換することを市民に広く説明すべきでは

答 水道料金の税外負担の軽減につきましても、原子力発電所建設に伴う国の交付金をはじめ、固定資産税など、大変豊かな財源のもとで市民の皆様は、受益者の負担を軽減すべきだということ、浜岡町当時からやってきたものであります。現在、値上げということを申し上げておりますが、大井川広域水道企業団から買っている水道料と、市民の皆様が供給している水道料の差額が51円です。水道料金を51円安く市民の皆様は提供することで、毎年2億円程度の赤字を一般会計から補填しています。一般会計からの

補助金等の廃止、または減額により、公営企業が取るべき独立採算性を確保し、健全な事業運営を図るため、この料金改定は必要であるとの答申をいただきました。上下水道料金等審議会のご意見を尊重し、本定例会に料金改定についての条例改正案を上程する予定でありましたが、その後、静岡県に緊急事態宣言が発令されました。このような経済状況を踏まえ、本定例会への上程は見合わせることにいたしました。



御前崎市池新田浄化センター

一般質問

・火葬場建設について



渥美昌裕

問 火葬場建設については、令和元年9月定例会一般質問の答弁の中で、市長は火葬場建設事業について、市民の関心が産廃処理施設の建設賛否を問う、住民投票にあるとの見解を示した上で、「住民投票の問題が一段落し、市民が冷静に考えることができる時期を待つべき」と議論を先送りする考えを示しました。その後の御前崎市の人口減、税収減など先行きに明るい兆しのない中では、単独運営を見直し、共同運営に舵を切ることが得策との判断をしました。令和2年10月15日に市長は牧之原市長と面会し、単独運営の断念と、組合離脱の申し入れを撤回することを伝達しました。その後令和3年3月26日、産廃問題は大栄環境(株)が撤退することで決着を見ました。その後5ヶ月が過ぎましたが、火葬場建設に向けての、牧之原市との協議、または2市1町の広域運営への進捗状況を伺います

答 火葬場建設の進捗状況は、令和3年2月議会でお答えしました以降、主だった進展はありません。引き続きまして広域化を念頭に、関係市町と慎重に協議を重ねております。次に、火葬場の広域運営ですが、現段階で具体的な内容はお示しできかねますが、今後ともスケールメリットを生かすことができるよう協議を重ねてまいります。



南遠地区聖苑 (火葬場)